



めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

JAN 2008 NO.9

めぐみ在宅クリニック (在宅療養支援診療所)

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

あけまして おめでとうございます

2008年、新しい年を迎え、スタッフ一同気持ちを新たにしております。今年も地域の皆様との連携を深め、クリニックの理念「どんな病気であったとしても、安心して最期を迎える社会にしたい」に沿った医療が提供できるように努めて参ります。

多くの方との出会いを通じ、一步一步歩んでいけますように、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

本年もどうぞ宜しくお願いします。

診療状況

12月の診療報告

外来患者数	173名
訪問診療回数	182回
永眠者(在宅)	3名
永眠者(病院)	1名

1月～12月までの月平均

外来患者数	169.3名
訪問診療回数	170.1回
永眠者(在宅)	6.7名
永眠者(病院)	1.8名

2007年 総計

外来患者数	2031名
訪問診療回数	2041回
永眠者(在宅)	80名
[グループホーム4名、小規模多機能1名、ケアハウス1名、特別養護老人ホーム1名を含む]	
永眠者(病院)	22名

在宅における保健、医療、福祉の連携モデル事業発表会

2月9日(土)午後1時より、西公会堂において、「在宅における保健、医療、福祉の連携モデル事業発表会」が行われます。地域緩和ケア研究会、デスクスペースカンファレンス、遺族調査をとおして、「存在と生きる意味を支える援助」がどのように展開され、質の高いケアが提供できたのか振り返ります。

研究会、デスクスペースカンファレンスへのご参加、遺族調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

NHK 特報首都圏

昨年12月7日に放映されたNHK 特報首都圏～最期の願いをかなえてください～のモニターレポートが届きました。30代から60代の方からのご感想をいくつかご紹介いたします。

- ・患者の発する言葉の裏に隠されている不安や苦痛を読み取ろうとして、「会話の記録」を大切に保存し診療にあたる小澤竹俊医師の姿に感銘した。
- ・自殺を考えるという患者を叱るでもなく、静かに話を聴いて訪問入浴をすすめるなど、さすがという感じだ。入浴して気持ちよくなった患者の女性が前向きになったのは驚きだ。小さな喜びが生きる力を与えることを知った。
- ・最愛の家族と最期まで「悪あがき」をして一緒に生きたいという夫婦の姿に感動。私もたとえ寝られなくてもずっと側にいたいと思うだろう。
- ・ひとりの医師ではなく、チームを組んで奉仕した方が万一に備してのリスク回避となりますが、その辺はどうなっているのか知りたいと思った。

ホームページ リニューアル

新しい年にあわせて、クリニックのホームページをリニューアルしました。グリーンを基調にしたすっきりしたデザインのページになっております。

今後の予定

研究会以外の講演・研修等

- 1月13日(日) 三重県総合文化センター
地域連携によるスピリチュアルペインの対応
- 1月19日(土) 保土ヶ谷区福祉活動拠点 多目的研修室
ホスピスに学ぶ心のケア(仮題)

プレスリリース

■ 暮らしと健康(2008年2月号)

1月発売

暮らしの羅針盤のコーナーで「人生の悲しみ 伴侶を亡くしたとき心をどう癒すか」というテーマのもと、悲しみを乗り越えるためのヒントが書かれています。是非ご一読ください。





めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

FEB. 2008 NO.10

めぐみ在宅クリニック (在宅療養支援診療所)

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

キーワードは、“連携”と“人材育成”

2月9日(土)、小雪のちらつく中、西公会堂において、横浜市の「在宅における保健・医療・福祉の連携モデル事業」発表会が行なわれました。当日の報告を別紙に掲載しました。

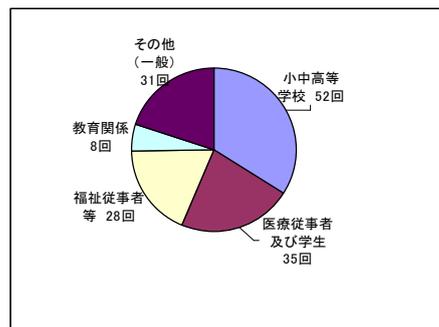
これからも、「どこで生活をしていても、どんな病気であったとしても、安心して最期を迎える社会を目指します。」という理念のもと、“連携”と“人材育成”をキーワードに、質の高いケアを提供していけるよう模索は続きます。

診療状況

1月の診療報告

外来患者数	133名
訪問診療回数	199回
永眠者(在宅)	13名
永眠者(病院)	0名
[グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名、特別養護老人ホーム 0名を含む]	

講演会実績



診療の合間に行なっている講演会、2007年は154回(東京・神奈川地域 124回 / その他地域 30回)となりました。

プレスリリース

近日発刊!

「苦しむ患者さんから逃げない! 医療者のための実践スピリチュアルケア」(日本医事新報社)

医療者向けとしては、初めての単行本になります。(※表紙カバーは変更があるかもしれません。)



アンケート調査

仙台往診クリニック(院長:川島孝一郎先生)よりアンケート調査の依頼がありました。このアンケート調査は、平成19年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進事業分)「重症高齢者を支える在宅療養支援診療所等の量的・質的整備計画事業」によるもので、当クリニックは、下記のような回答になりました。

I 平成19年12月(1ヶ月)のうち

1. 在宅患者総数:85人

- a) 在宅患者総数のうち、往診しているがん患者数:29人
- b) そのうち麻薬を使用している患者数:24人

2. 一日平均訪問患者数:5.8人

II 平成19年1月から12月までの1年間の夜間・深夜・祝祭日における緊急往診の月平均回数:1.7回

III 平成19年1月から12月までの1年間の在宅での看取り総数:85人、そのうち、

- a) 夜間・休日の在宅看取り数:47人
- b) がんの在宅看取り数:58人

IV 平成18年1年間と平成19年1年間の在宅患者総数の増減と看取り数の増減

患者総数:増えた / 看取り数:増えた

V 平成19年12月において、在宅時医学総合管理料、もしくは在宅末期医療総合診療料を算定している患者の総診療報酬点数が診療報酬に占める比率:約70%

今後の予定

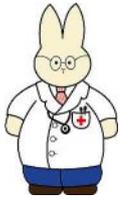
第11回地域緩和ケア研究会(3月18日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

- 2月26日(火) 横浜市福祉サービス協会港北事務所
ホームヘルパー研修
- 2月28日(木) 旭瀬谷薬剤師会研究会
- 3月8日(土) 日本大学会館 日本高齢者腎不全研究会

NHKスペシャル

2月24日(日)午後9時~NHKスペシャル 最期の願いをかなえたい ~在宅でガンを看取る専門医~(仮)が放映される予定です。取材にご協力いただいた皆様、ありがとうございます。是非ご覧ください。



めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

MAR. 2008 NO.11

めぐみ在宅クリニック (在宅療養支援診療所)

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

芽吹きするとき

梅の花が咲き、桜の便りが待ち遠しい季節になりました。4月からは新しい医師も増える予定です。医師、看護師、薬剤師、介護ヘルパー、ケアマネージャー、地域で努力し活躍されている皆様と共に、春の陽だまりのような暖かな時間を大切に過ごしていきたいと思っています。

最期の願いをかなえたい

2月24日(日)NHKスペシャル「最期の願いをかなえたい」が放映されました。多くの方から「感動しました」「心のケアに共感しました」「涙で画面が見えなくなりました」といった反響をいただきました。ご覧いただいた方、取材にご協力いただいた方、皆様ありがとうございました。

また、神奈川新聞の調査によれば、神奈川県内の在宅療養支援診療所で最多の62名(2006年10月～2007年6月)を看取ったのは、当クリニックだったということがわかりました。在宅療養支援診療所として、神奈川県内で一番多くの患者さんをお見送りしたことになります。

診療状況

2月の診療報告

外来患者数	155名
訪問診療回数	182回
永眠者(在宅)	5名
永眠者(病院)	0名

[グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名、特別養護老人ホーム 0名を含む]

勇美記念財団 助成金

財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の一般公募に申請し、助成金の交付が認められました。2月より、地域緩和ケア研究会、デスクケースカンファレンスなどは、この助成金を受けて運営されております。病気そのものを治すことが難しい状況でも、終末期の患者さんと向き合う援助者が地域で増えていくことを目指して、勉強会や調査研究を行います。

喜多先生より

毎週火曜日に非常勤医師としてお越しいただいております喜多かおる先生が4月より横浜市立大学付属病院(福浦)の泌尿器科で勤務されることになりました。いつも落ちついた雰囲気、喜多先生にお会いできなくなるのは残念ですが、これからますますのご活躍に期待しています。

喜多先生より、皆様へメッセージをいただきました。

「早いもので非常勤医師として勤務させていただいてから、あっという間に9ヶ月が過ぎてしまいました。普段の病院勤務では知らなかったであろうご自宅で過ごされている患者さんの日常、それを支えていく地域のスタッフの熱い思いや悩みを直に聞くことができたことが、私の宝となりました。これらの経験があったからこそ、また専門医としてがんばってみようと思えるようになったのも事実です。(そのうち戻ってくるかもしれません?)またどこかでお会いすることがあるかと思いますが、その時はよろしく願いいたします。ありがとうございました。」

4月1日(火)の緩和ケア外来

4月から診療報酬の一部が改訂されます。改訂に伴う医療事務作業を滞りなく進めるために、4月1日(火)の緩和ケア外来は休診とさせていただきます。予めご了承ください。

今後の予定

第12回地域緩和ケア研究会(4月15日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

3月29日(土) 13時半～NPO ワーカーズビオラ

大田区民プラザ 3階

4月11日(金) 13時半～16時半

かながわ福祉サービス振興会 「医療との連携」

4月26日(土) 10時半～ 看護の日講演会

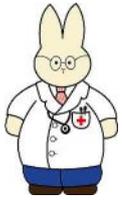
横浜市立大学福浦キャンパス

※詳細はクリニックまでお問い合わせください。

参考資料

緩和ケア Vol.18 No.2 3月号 巻頭言 (青海社)

小澤医師が編集同人をしている専門誌です。ホスピス、緩和医療に関する最新情報や記事が充実しています。



めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

APR. 2008 NO.12

めぐみ在宅クリニック (在宅療養支援診療所)

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

小澤院長より

どんな病気でも、どこに住んでも安心して最期を迎える社会にしたいという理念をもとに開業して1年半を迎えます。この間に、130名近い患者さんを主治医として、自宅や介護施設で、最期を迎える援助を行うことができました。この実績は、神奈川県内の在宅療養支援診療所として最も多いものでした。そして単に実績としての数だけではなく、提供するケアの質も高いものでありたいと願い、会話記録を通した学びを実践してきました。さらには、人材育成も、めぐみ在宅クリニックの大切な理念の柱として、講演会活動やスピリチュアルケアの新刊「実践スピリチュアルケア(日本医事新報社)」を出すことができました。数年前に私の講演を聴いた高校生から今春、医学部に入学することができたと報告を受けました。新刊を通して、講演だけではなく、質の高いケアを学ぶ機会が増えていくことを期待しております。

そして、この4月より2名の医師がクリニックに来ていただくことになりました。泉田知子先生と國廣崇先生です。それぞれ総合内科と循環器内科を専門にされてきたベテランの医師です。めぐみ在宅クリニックで出会う患者さん・家族を通して、在宅緩和ケアを学ばれていきます。ただ単に病気だけを診るのではなく、一人の人間として最期まで「存在と生きる意味を支える援助」を支える援助を提供できる医師として研鑽され、これから緩和ケアを学ぶ援助者への指導医になれるように期待しております。今までは常勤医師1名で80名前後の患者さんを診ておりましたが、徐々に多くの患者さんを診ていくことができるように地域の様々な事業所と連携してさらに成長していきたいと思っております。

診療状況

3月の診療報告

外来患者数	160名
訪問診療回数	211回
永眠者(在宅)	9名
永眠者(病院)	1名
〔グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名、特別養護老人ホーム 0名を含む〕	

ディズニーシーにおける3本の柱

はじめまして、三浦有子です。「いのちの授業」の非常勤講師をしております。小学校から中学、高校そして学校関係者向けに「理解者になるためのコミュニケーション」と「苦しくても誰かを傷

つけずに、自らを傷つけずに生きていく」ことを伝えています。その中には、存在を支える3本の柱(時間存在、関係存在、自律存在)の話があります。

ところで先日、家族でディズニーシーに遊びに行きました。その日はとても天気がよく、どのアトラクションも長蛇の列で、特に人気のアトラクションではファストパスの発券が終了してしまう混雑ぶりでした。

どれも1時間以上待たなければならなかったのですが、どうしても乗りたい！アトラクションは「センターオブジアース」。なんと待ち時間は130分。それでもどうしても乗りたいということで、子ども達と一緒に並びました。最初の1時間くらいは、おしゃべりしたり、しりとりしたりと遊びながら過しましたが、なかなか進まない列と疲れでだんだんイライラしはじめました。

ふと私の頭に浮んだのは、苦しみを表す2本の線と3本の柱。私の希望は、早くアトラクションに乗りたい。でも現実はまだ1時間以上待たなければならない。今の苦しみはこのギャップにあるのだと理解しました。そして次に3本の柱を考えました。時間存在は、この列に並んでいればアトラクションに乗れる。関係存在は、一緒に待っている家族がいる。自律存在は、いくつもあるアトラクションの中から、スピードとスリルを味わえるこのアトラクションを自分で選んだ。ここまで考えてふとまわりを見渡してみました。恋人同士や仲間同士で待っている人たちは、きっと関係存在が支えているのだろうとか、一人でじっと待っている人は、自律存在がすごく大きいのかな、などと思い巡らしていたら、待ち時間もあっという間に過ぎていきました。

夢と魔法の国で考えた3本の柱、「待つ」ことを考えた1日でした。

今後の予定

第13回地域緩和ケア研究会(5月20日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

4月26日(土)横浜市大福浦キャンパス 看護の日講演会

5月14日(水)、28日(水)

横浜上大岡臨床心理センター心を学ぶ連続講座

5月17日(土)高知県 緩和ケア講演会

5月18日(日)徳島県 緩和ケア講演会

5月25日(日)広島県 日本死の臨床研究会

中国・四国支部大会 講演会



めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

MAY 2008 NO.13

めぐみ在宅クリニック (在宅療養支援診療所)

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

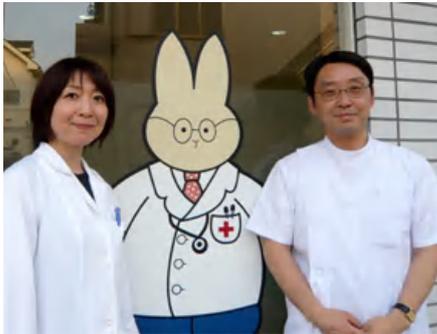
E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

緑の季節

訪問診療に向かう車の中から見える景色に、緑色が増えました。つつじの赤やパンジーの黄、ハゴロモジャスミンの白などが映えて見えます。車を降りて、ふといいい香りがただよってくると、それだけで幸せな気持ちになります。香りは記憶と結びついているそうです。

慣れ親しんだ自宅のお庭やベランダから吹く風を感じて、ゆったりとした時間を過ごせるのは、在宅ならではの良さなのでしょう。この穏やかな香りの中で、穏やかな時間を過ごせるようにと願わずにはいられません。そして、訪問に何う患者さんとそのご家族の表情に穏やかさを感じるとき、このまま時間が止まってしまえばいいのに…とってしまいます。

泉田先生より



みなさん こんにちは。
4月から非常勤医師として勤務している泉田^{せんだ}です。

私は漠然と家庭医になりたいと思ながらこれまでいくつかの病院

で研修をし、その後逗子にある診療所で外来診療を行ってまいりました。逗子の診療所では24時間体制の往診を行っていないので、終末期の患者さんのご依頼は基本的に受けられないのですが、家庭医を目指す私としては将来的にはかかりつけの患者さんやそのご家族のそういったご依頼も受けられるようになりたいと思いました。

そこで、その時のために在宅緩和ケアの勉強をしようと思立ち、小澤先生に研修のお願いしたところ快く引き受けて下さいました。

さっそく火曜日の研究会に参加させて頂いてまず一人の患者さんにかかわるいろんな職種の方が一堂に会して勉強する機会があるのは素晴らしいと思いました。さらにみなさんのご意見には、“なるほど〜”と関心させられっぱなしで、よいケアを提供しようというみなさんの熱意を感じました。私もよいケアを提供できるよう学んでいきたいと思しますのでどうぞ宜しくお願い致します。

診療状況

4月の診療報告

外来患者数 201名

訪問診療回数 239回

永眠者(在宅) 10名

永眠者(病院) 2名

[グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名、特別養護老人ホーム 1名を含む]

今後の予定

第14回地域緩和ケア研究会(6月18日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

6月8日(日) 日本死の臨床研究会関東支部大会

地域緩和ケアチームで事例発表を行います。

6月13日(金) 国立療養所長島愛生園 講演会

7月4日(金) 5日(土) 緩和医療学会



日本死の臨床研究会では、真の援助の道を全人的立場より研究していくことを目的とし、1977年より活動を続けております。

今回、真の援助者を育てる一環として、

学生のための ホスピス緩和ケアの集い IN 横浜

を開催することになりました。

終末期医療において、

言葉を失う場面にあつたとしても、

“苦しむ誰かの力になりたい”

と思う学生の皆さん、

是非お誘い合わせの上、お越し下さい。

日時：2008年8月30日(土) 31日(日)

場所：ウィリング横浜(京浜急行上大岡駅そば)

対象：学生(医学生、看護学生、福祉系学生、教育系などの学生)

主催：日本死の臨床研究会企画委員会





めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

JUNE 2008 NO.14

めぐみ在宅クリニック (在宅療養支援診療所)

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

地域緩和ケアチームで事例発表

6月8日(日)、高崎(群馬県)で行なわれた日本死の臨床研究会関東支部大会において、地域緩和ケアチームである瀬谷メディカルセンター訪問看護ステーションの佐野さんが『ターミナル期の患者さんを通して学んだ訪問看護師としての苦しみと関わり続けることの大切さ』として事例発表を行ないました。

今後も様々な場での経験を生かして、質の高いケアを目指していきたいと思います。

札幌南青洲病院より

小澤医師の恩師であられる札幌南青洲病院院長の前野先生とMSWの提箸さんが5月26日(月)に見学にいられました。これから新しく診療所を立ち上げられるそうです。



修学旅行の生徒さんたち

5月28日(水)、6月5日(木)岐阜県の中学生がそれぞれ修学旅行の見学先として、当クリニックにいられました。

「ホスピスってどんなところ？」

「訪問診療って何?」「理解するより理解者になること」などの授業のエッセンスをお話しました。生徒さん達からは、「どうしてこの仕事を選んだのですか」「つらいと思ってやめなくなったことはありますか」「心がけていることはどんなことですか」といった質問がありました。この日の出会いを通して、医師、看護師、介護といった援助職を目指してくれたら、とてもうれしいです。

今後の予定

第15回地域緩和ケア研究会(7月15日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

- 7月12日(土)13日(日) 日本ホスピス在宅ケア千葉大会
- 7月19日(土)20日(日) ホスピス緩和ケア協会
- 7月23日(水)18:00~ 大和市保健センター講演
- 8月30日(土)31日(日) 学生のためのホスピス緩和ケアの集い IN 横浜 主催:日本死の臨床研究会企画委員会

クリニックを支えてくれる方々

こんにちは。横浜個人タクシー協同組合所属の村井です。同業K氏の紹介で仕事を受けてから、早いもので1年になります。当初はクリニックの診療内容も知らず、クリニックと自宅が近いというだけで引き受けました。その後、終末期の在宅訪問と知りました。患者さんの御宅へ先生や看護師さんを送迎していますが、その都度感心しています。それは、暖かな笑顔でやさしく対応する事です。その笑顔や思いやりがおそらく患者さんの苦痛を和らげているものと思います。私事ではありますが、両親共在宅で看取りました。その事に何か御縁を感じます。本人が望み、住み慣れた自分の家で最期を迎えたのですからそれなりに幸せだったと思うのですが…。願わくば、先生やクリニックの皆さんともう少し早く出逢っていたら…。皆さんのやさしく明るい笑顔に感謝して、より一層の安全運転に心掛けて仕事に励みたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。 村井孝四郎

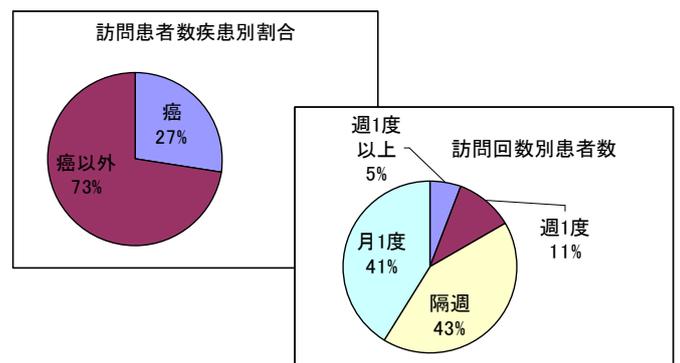


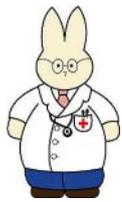
診療状況

5月の診療報告

外来患者数	217名
訪問診療回数	251回
永眠者(在宅)	13名
永眠者(病院)	1名
〔グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名、特別養護老人ホーム 1名を含む〕	

【2008年6月9日現在の訪問患者状況】





めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

JULY 2008 NO.15

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所） 〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

在宅療養支援診療所に係る報告について

「在宅療養支援診療所」の届出を行っている医療機関として、平成19年7月1日より、平成20年6月30日までの期間について、神奈川県社会保険事務局保険課へ報告書の提出を行いました。この場をおかりしてご報告いたします。

報告内容

期間:平成19年7月1日～平成20年6月30日

平均診療期間:2.5ヶ月（74日）

合計患者数（訪問診療）:200名

うち、死亡患者数118名、（再掲:在宅看取り数91名）

『内訳:医療機関等での死亡数17名、医療機関以外での死亡数101名（自宅93名、自宅以外8名）』

診療状況

現在、訪問診療にお伺いしている地域は、瀬谷区を中心に、泉区・旭区・保土ヶ谷区の一部、及び大和市の一部です。5キロ圏内を目安としておりますが、必要に応じてご相談ください。

月	1	2	3	4	5	6	計	月平均
外来患者数	133	155	160	201	217	190	1056	176.0
訪問診療回数	199	182	211	239	251	236	1318	219.7
永眠者 (在宅)	13	5	9	9	12	18	66	
永眠者 (GH)	0	0	0	0	0	0	0	
永眠者 (特養等)	0	0	0	1	1	0	2	
永眠者 (その他)	0	0	0	0	0	0	0	
永眠者 在宅等計	13	5	9	10	13	18	68	11.3
永眠者 病院計	1	0	2	2	1	4	10	1.7

國廣先生より

こんにちは、今年4月からめぐみ在宅クリニックでお世話になっている、医師の國廣崇(くにひろ たかむ)です。

院長の小澤先生と一緒に週1回、御自宅に訪問させて頂き、在宅医療を学んでまいりました。この7月からは、少しずつ小澤先生から離れて訪問させていただく機会が増えてきました。今後は少しでも地域に貢献できるよう精進していきたく思いますので、よろしくお願いいたします。



私は、15年間循環器を専門に、総合病院で働いてきました。患者さんのいのちを救えるやりがいを感じる一方、残念ながら救命できない患者さんと切ない別れを経験してきました。適切な治療に加えて、その人らしく生きられるように、ユーモアあふれる雰囲気作りを心がけていきたいと思うようになりました。在宅で治療を希望される患者さんと御家族が、どうか少しでも穏やかな日々を送れる事を、心からお祈りします。

夏季休診のお知らせ

8月11日(月) 外来 休診

8月12日(火) 緩和ケア外来 休診

8月14日(木) 外来 休診

訪問診療は、おこなっております。クリニックは不在とすることがありますが、訪問のご依頼や、患者様のご相談はクリニックまでご連絡ください。(不在時、電話は転送にて対応)

今後の予定

第16回地域緩和ケア研究会(8月19日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

7月26日(土) 在宅医療の講演会(四日市市総合会館)

8月16日(土)17日(日) ホスピスケアのコ・メディカルスタッフ志望学生のためのセミナーキャンプ(東京都三鷹市)

8月30日(土)31日(日) 学生のためのホスピス緩和ケアの集い IN 横浜 主催:日本死の臨床研究会企画委員会



めぐみ在宅地域緩和ケア研究会

NEWS LETTER

AUG 2008 NO.16

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所） 〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

もうすぐ2年

真夏の強い日差しから、残暑を感じる日差しに変わりつつ、どこか人恋しさを感じる季節になりました。もうすぐクリニック開設から2年を迎えます。光のように過ぎた時間もふと振り返るとたくさんの出会いと別れが散りばめられています。

緩和ケア外来であったり、病院からのご紹介であったり、初めての出会いは様々ですが、訪問診療に伺って過す時間は、患者さん、ご家族、地域緩和ケアチームとシンフォニーを奏でるようです。一人ひとりが持つ音色を美しく響かせ、心に残る一曲となるように願っています。

振り返りのひととき



クリニックでは第2第4火曜日の午後1時30分より、訪問診療を振り返り、よりよいケアを行うためにデスクケースカンファレンスを行ってきました。毎回、関わった訪問看護ステーション、ケアマネジャー、訪問介護などの他事業所が参加され、意見交換を行ってきました。そして、この8月より、このカンファレンスに亡くなったご遺族にも参加していただくようになりました。ケアを行う側からの意見だけではなく、ケアを受けたご遺族の側からの意見も加わる

ことにより、さらに深い考察や、課題が見えてきました。これからは質の高いケアが地域で提供できるように、学んでいきたいと思っています。

診療状況

7月の診療報告

外来患者数	201名
訪問診療回数	267回
永眠者(在宅)	11名
永眠者(病院)	3名
〔グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 1名 特別養護老人ホーム 0名を含む〕	

佐藤看護師より

皆様 こんにちは。私はクリニック開設当初から、小澤先生の傍らで裏方としてかかわらせていただいております、看護師佐藤です。小澤先生との



出会いは、私が訪問看護師として頑張っていた時でした。患者さんにご家族の気持ちに寄り添う優しさと、その大きな安心感に心を打たれました。それまで医療者として人として求めてきた関わりを、体験できた感動がありました。

クリニック開設以来1年10ヶ月。いろいろな出来事があり、沢山の出会いと悲しい別れがありました。たくさんの涙が流れました。心の痛みを感じることも多くありました。

その人がその人らしく、そしてそのご家族がその人らしさを支えられ、よい時が過ぎたと思います。そんなささやかな願いをエネルギーに日々過しております。

同じ志を持って頑張っていて活躍されている皆様との連携を大切に、これからも努力していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

参考資料(原稿執筆等)

医学書院 総合診療誌 JIM 2008 Vol. 18 No. 8

「終末期ケアにおける痛み」

今後の予定

第17回地域緩和ケア研究会(9月16日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

8月30日(土)31日(日) 学生のためのホスピス緩和ケアの集い IN 横浜 (学生対象ですが、社会人の参加も可能です。お問合せはスタッフまで。)

主催:日本死の臨床研究会企画委員会

9月26日(土) 洗足学園音楽療法士向け講演会

9月27日(日) 日本医科大学北総

10月4日(土)5日(日) 第32回死の臨床研究会年次大会

めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

SEP 2008 NO,17

めぐみ在宅クリニック (在宅療養支援診療所)

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

緩和ケアの最近の動向

厚生省、緩和医療学会が中心となって緩和ケアを広めるための教育が各都道府県単位で展開されようとしています。先日、その基礎となる資料を拝見しました。残念ながら内容的には表面的な薬の知識にとどまるもので、講習を受けた医療者が、理不尽な苦しみを抱えた患者さん・家族のケアに、逃げないで向き合い、援助が行える内容とはほど遠いものでした。どうして、このようなカリキュラムが教育効果の妥当性・信頼性の検証もなく普及していくことになったのか、残念でなりません。緩和ケアの最前線で働いている専門職からみると、人材育成の基礎は、対人援助の本質をつかむことにあると考えています。励ましが通じない修羅場において、苦しみの原因となる病気をたとえ治すことができなくても、一人の人間として存在と生きる意味を支える援助がどのように成立していくのかを、つかむ必要があると考えます。しばらくは、緩和ケア教育は混沌とした時代が続くかもしれません。その中であって、苦しむ人と向き合い、援助を提供できることを学び、そしてめぐみ在宅クリニックとして伝えていきたいと思えます。

(院長 小澤竹俊)

学生のためのホスピス緩和ケアの集い in 横浜

8月30日(土)、31日(日)の2日間にわたり、【学生のためのホスピス緩和ケアの集い】が、死の臨床研究会企画委員会の主催で開催されました。



医学生、看護学生をはじめ、看護師さん、教員の方など63名の方の参加がありました。基調講演、7つの分科会を通し、参加された学生さん達から、「エキスパートの先生方の話を直接聞くことができ、勉強になった。」「緩和ケアの現場の話を開けて有意義だった。」「また次回も参加したい。」といった感想が寄せられました。

遺族会：追想の集い

平成20年10月12日(日)12:00~15:00
三ツ境相鉄ライフ 4F コミュニティサロン
*詳細はスタッフまでお問合せください。

診療状況

8月の診療報告

外来患者数	128名
訪問診療回数	211回
永眠者(在宅)	8名
永眠者(病院)	1名

[グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名
特別養護老人ホーム 0名を含む]

勇美記念財団 中間報告

「地域で終末期医療に従事する専門職を育成するために」～存在と生きる意味を支える援助に向けた人材育成と地域連携の試み～と題し、2007年度在宅医療助成 一般公募(後期)の中間報告を提出しました。

クリニックで行なっているデスケースカンファレンス、地域緩和ケア研究会等は、勇美財団からの助成金を受けて開催しております。

参考資料(原稿執筆等)

朝日新聞出版 AERA 日本の家庭医 08

町のお医者さん 1435人に掲載されました。

朝日新聞出版 週刊朝日 MOOK 医学部に入る2009

「いのちの現場」在宅緩和ケアとして掲載されました。

今後の予定

第18回地域緩和ケア研究会(10月21日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

9月20日(土) 第16回神奈川交流会

9月26日(土) 洗足学園音楽療法士向け講演会

9月27日(日) 日本医科大学千葉北総病院

「緩和ケア委員会秋季講演会」

10月4日(土)5日(日) 第32回死の臨床研究会年次大会

10月16日(木) 医療連携会議(県立がんセンター)

めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

OCT 2008 NO.18

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所）

〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

緩和ケアの最近の動向

2006年10月に開業して2年が経過しました。先日集計を取ったところ、06年10月から08年9月までの24ヶ月間の総看取り数は、297名（自宅226例、介護施設11例、入院60例）でありました。開業してまだ日が浅いにも関わらず、多くの患者さん・ご家族と出会えたことは、めぐみ在宅クリニックを信頼して紹介して下さる病院や訪問看護ステーション、ケアマネジャーや各事業所があることを覚えて感謝申し上げます。特筆すべきは、めぐみ在宅クリニックには訪問看護ステーションを併設していないことです。これだけ多くの患者さんのケアをそれぞれの地域の訪問看護ステーションと連携して行っていることは、事例を共有しながら、ともに学ぶことができることとして素晴らしいことだと考えております。また、在宅緩和ケアを学ぶために泉田先生、國廣先生、吉野先生が非常勤医師としてめぐみ在宅クリニックで活躍されております。この秋より「がんプロフェSSIONナル」養成のために医師の研修を受ける予定です。これからも地域で在宅緩和ケアを必要とされる患者さん・家族のために地道に活動を続けていきたいと願っております。

（院長 小澤竹俊）

ホスピス緩和ケア週間(10月5日～11日)



10月10日(金)、ホスピス緩和ケア週間の企画として、「ホスピスから学ぶいのちの教育」の講演を公文国際学園高等部にて行いました。受験勉強真っ只中の高校3年生が対象でしたが、将来医師や看護師、理学療法士など援助職を目指している生徒さんも多く、熱心に聴いてくれました。

ホスピス緩和ケア週間はオレンジバルーンプロジェクトにも参加しています。シンボルのオレンジの風船をご希望の方はスタッフまでお申し出ください。

遺族会：追想の集い



10月12日(日)12:00より、三ツ境相鉄ライフ 4F コミュニティサロンにおいて、第二回追想の集いが開催されました。2007年7月から2008年6月までに亡くなられた患者さんのご遺族の方をお招きし、関わり

のあった事業所の方々とともに、故人をしのんで、思い出を語り合ったり、その後の暮らしぶりなどをうかがったりすることができました。



診療状況

9月の診療報告

外来患者数	186名
訪問診療回数	225回
永眠者(在宅)	9名
永眠者(病院)	2名
〔グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名 特別養護老人ホーム 1名を含む〕	

参考資料(原稿執筆等)

日本経済新聞 9月30日夕刊 人生の終章
看護教育 2008年 No.11 医学書院

ホスピス発の“いのちの授業”

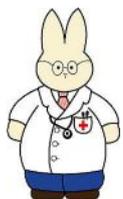
今後の予定

第19回地域緩和ケア研究会(11月18日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

- 11月1日(土) 第17回奈良緩和ケア研究会(奈良)
- 11月8日(土) 市民のための介護保険をつくる会(大和)
- 11月15日(土) 「神奈川県におけるがん対策基本法施行の実態と緩和ケアの現状」(川崎)
- 11月22日(土) 国保成東病院緩和ケア(千葉)
- 11月28日(金) 洗足教会ぶどうの会(旗の台)

めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

NOV 2008 NO.19

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所） 〒246-0031 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷 4-30-2

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

E-MAIL: megumi_zaitaku@miracle.ocn.ne.jp

真の援助者を育てるために

11月15日川崎にて「がん難民にならないために」というシンポジウムに在宅緩和ケアの立場のシンポジストとして参加してきました。ご存知の方も多いと思いますが、24時間で在宅での看取りを行う在宅療養支援診療所が全国に1万弱の届け出があります。しかし、実際に看取りがゼロの施設が3割であり、10人以上の看取りを行っている在宅療養支援診療所は全体の10%以下が現状で2極化しています。特にがんの患者さん・家族に対して在宅緩和ケアを提供できる医療機関は限られている現状を報告しました。そして、今後の課題として、地域で苦しむ患者さん・家族と向き合うことのできる真の援助者を中長期的な視野に立って育成していく必要を紹介しました。がん難民になるのは、何も患者さん家族が病状を認めずいるだけではありません。生きていたい思いで苦しんでいる人と真に向き合える医療者が少ないことも一因であると考えます。社会をよくするには医療制度を変えるトップダウンと人材を育てるボトムアップが必要と言われています。医療制度を変えるのは比較的短い時間でできるかもしれませんが、人を育てるには100年かかると言われています。めぐみ在宅クリニックとして、長い視点を持ちながら人を育てる事業に取り組んでいきたいと思えます。

(院長 小澤竹俊)

がんプロフェッショナル養成プラン

11月より、横浜市立大学大学院医学研究科の「がんプロフェッショナル養成プラン」の連携医療機関として実習生の受け入れを行っております。毎週木曜日、耳鼻咽喉科の水野浩美先生がいらしていますので、どうぞ宜しくお願いします。

家庭医実習

11月25日から11月28日まで、東京慈恵会医科大学医学科5年生が「家庭医実習」に参加します。医学・医療を学ぶ貴重な実習になると思います。皆様のご協力、ご指導どうぞ宜しくお願いいたします。

パーテーションの向こうは…



普段、パーテーションで区切られている向こう側は、写真のように本棚、ホワイトボード、パソコン、テーブルのあるスペースです。ここで訪問に出かける前に申し送りやカンファレンスをしたり、お昼ご飯を食べたりしています。本棚には緩和ケアに関する書籍や雑誌がとりそろえられ、勉強するための環境をすこしずつ整備しています。

診療状況

10月の診療報告

外来患者数	168名
訪問診療回数	273回
永眠者(在宅)	11名
永眠者(病院)	1名
〔グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名 特別養護老人ホーム 1名を含む〕	

メディア・原稿執筆等

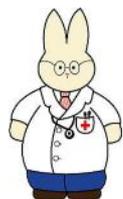
11月9日朝日新聞 夕刊「患者の苦しみ前にして」

今後の予定

第20回地域緩和ケア研究会(12月16日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

- 11月22日(土) 国保成東病院緩和ケア(千葉)
- 11月28日(金) 洗足教会ぶどうの会(旗の台)
- 12月13日(金) 介護リハビリ講演会(原宿地域ケアプラザ)
- 12月18日(木) 済生会横浜市南部病院
- 12月20日(金) 在宅緩和ケアの研修会(米子市)



真の援助者を育てるために

聖書の有名なメッセージに「耐えられない苦しみはない」という話があります。耐えられない苦しみとはどんな苦しみでしょうか？もし、受験生であれば、“解けない難問はない”とおきかえ、回答することのできるやさしい問題を想像するかもしれません。しかし、私たちの人生は、平坦ではなく、様々な苦しみの中で生きて行かなくてはなりません。在宅であれ、施設であれ、病院であれ、苦しむ患者さん・家族の力になりたいと願いながら、力になれずに苦しむとき、バーンアウトしてしまう医療者、介護者もいるでしょう。“耐えられない苦しみはない”の真意は、簡単で乗りこえやすい苦しみだけであるという意味ではありません。どんな苦しみに出会ったとしても耐えることができるという意味です。“耐える力がある”ということは、“支えがある”と言うことです。めぐみ在宅クリニックは、緩和ケアを専門に医療を提供しています。緩和ケアは、単に痛み止めだけの医療ではありません。単に看取りの医療でもありません。たとえ、困難な苦しみをかかえたとしても、耐えるための支えを、一人ひとり異なる支えを、育む医療を目指しています。この医療をクリニック内だけではなく、関わる多くの他事業所、多職種で展開できるとき、地域緩和ケアチームが形成されていくと考えます。来年も、地域で苦しむ人のために、お互いが支え合いながら歩んでいきたいと思えます。（院長 小澤竹俊）

家庭医実習

1月5日から1月9日まで、東京慈恵会医科大学医学科5年生が「家庭医実習」に参ります。医学・医療を学ぶ貴重な実習になると思います。皆様のご協力、ご指導どうぞ宜しくお願いいたします。

年末年始の診療について

12月26日(金)～1月4日(日)まで

外来診療はお休みとなります。

訪問診療については、個別に対応させていただきます。
また緊急時の対応は通常通りとなります。

遺族調査について

2007年10月～2008年9月末までに永眠された患者様（訪問診療を行った患者様131名）のご遺族に対し、本年12月遺族調査を実施しております。調査は無記名のアンケートとして郵送で実施、12月末に集計し来年結果報告をさせていただく予定です。尚、この調査は『勇美記念財団』の助成を受けおこなっております。

診療状況

11月の診療報告

外来患者数	124名 (インフルエンザ予防接種を除く)
訪問診療回数	283回
永眠者(在宅)	11名
永眠者(病院)	2名
[グループホーム 0名、小規模多機能 0名、ケアハウス 0名 特別養護老人ホーム 2名を含む]	

メディア・原稿執筆等

12月16日号 週刊女性『人間ドキュメント』

心に寄り添い、身をささげ-遺族から届く「ありがとう」

今後の予定

第21回地域緩和ケア研究会(1月20日)参加受付中です。

研究会以外の講演・研修等

12月20日(金) 在宅緩和ケアの研修会(米子市)

1月31日(土) 市民公開講座(柏市)

大切な存在と思えるために～命と向き合って～

来年もどうぞ宜しくお願いします。

今年も12月を迎えました。月日の流れは速く、夏の暑い日々、日暮れの早くなった秋は、足早に過ぎ去り、指先のかじかむ冬がやってきました。1月から11月までの間にお見送りをした患者さんは、118名になります。出会った患者さん一人ひとりを思いおこし、祈りをささげます。

